

No.	テレワーク効果の受益者	想定されるテレワーク効果検証項目(例)			検証対象		検証方法(例)		情報収集方法					収集結果						
		大分類	中分類	小分類	対象 対象外	対象外の事由	評価種別	評価内容ポイント (下記は、評価方法の基本的な考え方で、 具体的な評価内容は事業者側で設定してくだ さい。)	収集情報	収集手段		回答者		収集タイ ミング 導入前 (通常勤務モデル)	導入後 (テレワークモデル)	通常勤務モデル	テレワーク勤務モデル	検証結果		
										アンケート形式	ヒアリング形式	経営者	管理者						テレワーカー	
1	企業(経営者・労務管理者)視点	ア 有能・多様な人材の確保・生産性の向上	a 業務効率や生産性の向上	①	テレワーカーの業務効率	定量評価	・テレワーク導入前後のテレワーカーの作業効率を比較評価する。													
2				②	テレワーカーの作業品質	定量評価	・テレワーク導入前後のテレワーカーの作業品質を比較評価する。													
3				③	業務管理・進捗管理の負荷	定量評価	・テレワーク導入前後のテレワーク管理者の管理工数の変化量の評価する。													
4			b 人材採用・定着(離職防止)	①	OB/OG採用の有効性	定性評価	・テレワーク業務におけるOB/OG採用に対する効果や意識の変化を評価する。													
5				②	離職防止への寄与	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの離職に対する考え方の変化を評価する。													
6				③	介護による離職防止への寄与	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの介護による離職への考え方の変化を評価する。													
7			c 社員の士気向上	①	社員のやる気の向上	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの仕事に対するモチベーションの変化を評価する。													
8				②	社員の会社に対する信頼性の向上	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの会社に対する信頼度の変化を評価する。													
9				③	社員の会社に対する帰属意識の向上	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの会社への帰属意識の変化を評価する。													
10			d 総労働時間の短縮	①	テレワーカーの労働時間	定量評価	・テレワーク導入前後のテレワーカーの労働時間の変化量の評価する。													
11				②	社内拠点常勤社員の労働時間	定量評価	・テレワーク導入前後の社内拠点常勤社員の労働時間の変化量の評価する。 (一部の社員にテレワークを導入する場合など)													
12		③		テレワーク管理者の労働時間	定量評価	・テレワーク導入前後のテレワーク管理者の労働時間の変化量の評価する。														
13		イ コスト削減	a オフィスコストの削減	①	オフィススペース賃料	定量評価	・テレワーク導入前後のオフィス賃料の年間増減額を評価する。													
14				②	オフィス移転費用	定量評価	・テレワーク導入でオフィス移転が発生する場合は、そのときに発生する諸費用を評価する。													
15				③	オフィススペース光熱費(空調、照明の電気代など)	定量評価	・テレワーク導入前後の社内拠点の光熱費の年間増減額を評価する。													
16				④	消耗品費用(事務用品、コピー費用など)	定量評価	・テレワーク導入前後の消耗品費用の年間増減額を評価する。													
17				⑤	人件費(テレワーカー)	定量評価	・テレワーク導入前後のテレワーカー人件費の年間増減額を評価する。													
18				⑥	人件費(社内拠点常勤社員)	定量評価	・テレワーク導入前後の社内拠点常勤社員人件費の年間増減額を評価する。 (一部の社員にテレワークを導入する場合など)													
19				⑦	人件費(テレワーク管理者)	定量評価	・テレワーク導入前後のテレワーク管理者人件費の年間増減額を評価する。													
20				⑧	IT投資額(初期投資費用)	定量評価	・テレワーク環境構築に要したインシヤルコストを評価する。													
21				⑨	IT投資額(ランニングコスト)	定量評価	・テレワーク環境構築で増減する年間ランニングコストを評価する。													
22				⑩	その他オフィスコスト(上記項目以外)	定量評価	・テレワーク導入後、上記項目以外で増減するコストを評価する。 (例えば、企業側が負担するテレワーカー費用など)													
23				⑪	テレワーカー負担費用(通信費、光熱費等)	定量評価	・テレワーク導入後のテレワーカー拠点の年間負担増減額を算出する。													
24		ウ 非常災害時の事業継続	b 交通費の削減	①	通勤定期代、出張や移動に伴う交通費など	定量評価	・テレワーカーへの通勤定期代年間支給額を算出する。													
25				②	地震、新型インフルエンザ等で社員の出勤困難な状況への対策	定性評価	・テレワークを用いることで、テレワーク業務が在宅にて(大きな)問題なく実施可能であるかを評価する。													
26	③			テレワーク導入によるテレワーカーの家族とのコミュニケーション量の増加	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの家族とのコミュニケーション量の変化を評価する。														
27	テレワーカー視点	ワーク・ライフ・バランスの実現	a 家庭生活の質の向上	①	家族とのコミュニケーションの増加	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの家族とのコミュニケーション量の変化を評価する。													
28				②	家族(子供・高齢者等)の世話や家事の時間の確保	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの家族サービス時間確保による満足度の変化を評価する。													
29				③	家事・家庭生活に対する不安・ストレスの減少	定性評価	・(ワーク・ライフ・バランスの実現により)テレワーク導入によるテレワーカーの家庭生活に対する不安・ストレスの現象度合いを評価する。													
30		b 働く時間の弾力性	①	自分のペースで仕事ができる(仕事の進め方や時間配分で裁量がきく)	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの仕事のペース配分に対する満足度を評価する。														
31			c 業務効率	①	仕事に対する集中力向上	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの仕事に対する集中力の度合いの変化を評価する。													
32				②	時間管理に対する意識の向上	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの時間管理に対する意識・能力の度合いの変化を評価する。													
33		③		通勤による疲労の減少	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの通勤による肉体的、精神的負担からの解放度合いの変化を評価する。														
34		d 満足度	①	仕事・働くことに対する満足度の向上	定性評価	・(ワーク・ライフ・バランスの実現により)テレワーク導入によるテレワーカーの仕事・働くことに対する満足度の変化を評価する。														
35			②	家庭生活に対する満足度の向上	定性評価	・(ワーク・ライフ・バランスの実現により)テレワーク導入によるテレワーカーの家庭生活に対する満足度の変化を評価する。														
36			③	個人の自由な時間の増加	定性評価	・テレワーク導入によるテレワーカーの趣味・自己啓発の時間確保の満足度の変化を評価する。														
37		社会的視点	ア 少子高齢化対策の推進・地域活性化の推進	a 地域における就業機会の拡大・チャレンジ機会の創出	①	育児等のために離職したOGの再雇用	定性評価	・(ワーク・ライフ・バランスの実現により)テレワーク導入によるOGテレワーカーの育児と就業の両立に対する意識の変化を評価する。												
38	②				女性にとって働きやすい職場・労働環境の提供	定性評価	・(ワーク・ライフ・バランスの実現により)テレワーク導入による女性テレワーカーの職場としての働きやすさの満足度の変化を評価する。													
39	③				高齢者にとって働きやすい職場・労働環境の提供	定性評価	・(ワーク・ライフ・バランスの実現により)テレワーク導入による高齢者テレワーカーの職場としての働きやすさの満足度の変化を評価する。													

※オフィスコストの評価は、年度ごとのコスト削減累計額で評価されることをお勧めします。

